

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	
令和3年度入学式学長式辞	2
令和3年度入学者数	4
令和2年度医学博士授与者（後期）	4
○ 人 事	
新任教授等・新任准教授等・新任講師等	6
就任あいさつ	8
・副理事長（復興・国際担当）ふくしま国際医療科学センター長	挾間 章博
・保健科学部 学部長	矢吹 省司
・保健科学部 理学療法学科 学科長	神先 秀人
・保健科学部 作業療法学科 学科長	五百川 和明
・保健科学部 診療放射線科学科 学科長	久保 均
・保健科学部 臨床検査学科 学科長	小川 一英
・医学部 脳神経外科学講座 教授	藤井 正純
・医学部 麻酔科学講座 教授	井上 聡己
○ 諸 規 程 改 正	
令和3年3月から令和3年8月末までの主な諸規程の制定改廃関係	12
○ 役員会・教育研究審議会	
役 員 会	19
経 営 審 議 会	20
教育研究審議会	20
医学部教授会	20
看護学部教授会	22
保健科学部教授会	22
○ 雑 報	24

学 事

■令和3年度福島県立医科大学 入学式学長式辞

令和3年4月7日挙行

福島県立医科大学 学長 竹之下 誠一

本日ここに、令和3年度福島県立医科大学入学式を挙行できますことは、本学にとってこの上ない慶びであります。本日、入学を許可された皆さん、ご入学誠にありがとうございます。

本学は今年、あの震災から10年となる節目の年に、3つ目の学部となる保健科学部を開設しました。その第1期生となる143名の皆さんに加え、医学部130名、看護学部84名、大学院医学研究科47名、看護学研究科8名の志を共にする仲間を迎え、文字通り医療の総合大学として新たな出発をいたします。皆さんが最高の学生生活を送り、抱いている志を実現できるよう、教職員一同、しっかりサポートしていきたいと思っております。

本日より本学で学ぶことになった皆さんには今日は二つのことをお伝えします。

まず、1つめは本学の使命と本学で医療を学ぶ意味についてです。このことは、毎年必ず新入生に伝えていることです。それだけ本学で医療を学ぶ者にとって忘れてはならない非常に重要なことであると受け取ってください。

今年は、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から10年となります。多くの皆さんは発災当時、小学校低学年だったため、実感がなく、大きな災害だったことは知

っていても、詳しくは知らないか、あるいは過去のこととしてあまり強い関心がないかもしれません。しかし、福島を襲ったあの災害は、巨大地震と津波に加えて原子力災害まで加わった世界でも例がない複合災害として、世界史に刻まれる惨禍だったのです。本学は災害後いち早く、健康と医療の面から福島県の復興を支えることを宣言し、片時も休むことなく、教職員が一丸となり、総力を挙げて医療の質の向上、地域医療の充実、原子力災害を含む災害への対応強化とモデルづくり、県民の健康維持、増進にまい進してきたのです。

そして、その使命の完遂は、日本と世界の大きな期待を集めています。本学には県内はもとより全国、世界から多大な支援が寄せられ、最先端の診療や研究、教育が行える環境が整えられたのです。

皆さんは、本日からそういう大学で医療を学ぶのです。その学びの過程で、皆さんは、今も多くの県民の皆さんが心の中に深い苦しみと悲しみを負っていることを知るはずで、10年前に起きた震災は、多くの人々の中で今も現在進行形であることに気づくはずで、

本学は、他の大学とは違い、不安を抱える県民を支え、この災害と惨禍に対して最前線に立ち続けることを宿命づけられた大学なのです。ですから、この大学で医療を学ぶ皆さんが、震災、原発事故、その被災者の方々の悲しみ、苦しみ、悔しさに対し、無関心でいることは絶対に許されません。自分自身の中で、この災害との接点や課題を見出し、真摯に考え、行動することが求められます。福島の地に刻まれた、壮絶で悲しい歴史に対し、私は知らない、関係ない、という姿勢は決して許されないこと、福島の復興の行く末に常に問題意識を持ち続けることを肝に銘じてください。

さらに、いずれ皆さんが志を実現し、医療人として社会に出たとき「福島県立医科大学

出身」という経歴は、想像以上に強いインパクトをもって迎えられます。誰もが震災や原発事故のこと、復興のこと、そこから得られた教訓などを、ほぼ間違いなく皆さんに質問します。その時、皆さんは、福島の医療者を代表してコメントする立場に置かれるのです。多大な支援と期待によって支えられた大学で医療のプロフェッショナルになる皆さんが何も答えられないでは許されません。その時、自らが何を語るのか、絶えず考えながら、本学での学びをスタートさせてください。

続いて、2つめは人間中心の世界観をもって医療に携わることについてです。

この数年、世界では「分断」や「格差」といった言葉で表現される変化が顕著になっています。戦後、世界が築いてきた安定が、多様な価値観の登場により、揺らぎ、不安定となっています。そのような中、新型コロナウイルス感染症が拡大し、ソーシャルディスタンスが推奨され、私たちは対面することも、会話をすることもままならず、孤立を感じる人が増えています。そのような社会的閉塞感を打破するためにイノベーションが叫ばれているのが今の時代です。

本学も、復興活動を通してイノベーションを起こすべく「ふくしま国際医療科学センター」を新設しました。このセンターに属する「放射線医学県民健康管理センター」では震災の3か月後から県民健康調査をスタートし、今に至るまで、被災者の皆さんの健康を見守りが続いています。「健康増進センター」では、県民の皆さんの生活習慣に起因する病気を防ぐべく、科学的エビデンスに基づいた健康指標の分析や評価、それらを推進する人材の育成に取り組んでいます。また、「医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター」では、例えば、この10年間にわたり地道に続けてきたタンパク質マイクロアレイの研究が基となり、新型コロナウイルス感染症の治療薬として中和抗体治療薬の研究が世界の注目を浴び

ています。さらに、本学は日本で唯一、医療研究専用の中型サイクロトロンを備えており、「先端臨床研究センター」では、このサイクロトロンを利用し、アルファ線核種を使ったRI内用療法の研究が国家プロジェクトの一翼を担っており、その成果を世界と競っています。

このように、震災から10年を経て、多くの復興プロジェクトが次第に成果を上げてきていることは、とても嬉しく、本学の持つポテンシャルの高さを国内外に示しています。しかし、私たちは時間の経過とともに記憶が風化し、そのプロジェクトの背景にある県民や患者さんへの思いよりも、技術革新に関心が行ってしまいがちです。そして、歴史が示すように、技術の進歩、時代の変化が加速するとき、私たちは意識の中心から人を見失いがちなのです。

だからこそ敢えて、医療は人のためにあること、人の幸せを実現するために存在するということを、喚起しなければなりません。医療の中心にいるのは必ず人間です。皆さんが医療に対して抱くイメージの中心に、必ず人間がいるのでしょうか。その問いは、これから医療人として生きていく以上、一生問い続けなければなりません。

人間中心の世界観なしに医療に携わることはできません。皆さんは、これまでに経験したことのない大きな困難や多様な価値観に触れてばかりでしょうが、心にしなやかさを持ち、何よりも人を愛し、敬ってこそその医療であることを、しっかり自覚し、医療の世界へ足を踏み入れてください。

最後に、皆さんの周囲を見回してください。これからのハードな道のりを踏破するための最大かつ最高のパートナーは同期の仲間です。互いに切磋琢磨し、高め合いながら一歩ずつ前に進んでください。皆さんの健闘を祈ります。

**■令和3年度福島県立医科大学入学
者数**

① 医学部新入生 130名

	男	女	計
県内	30名	16名	46名
県外	57名	27名	84名
計	87名	43名	130名

② 看護学部新入生 84名

	男	女	計
県内	3名	61名	64名
県外	2名	18名	20名
計	5名	79名	84名

③ 保健科学部新入生 143名

		男	女	計
理学療法学科	県内	7名	15名	22名
	県外	12名	6名	18名
	計	19名	21名	40名
作業療法学科	県内	4名	22名	26名
	県外	4名	8名	12名
	計	8名	30名	38名
診療放射線科学科	県内	6名	10名	16名
	県外	5名	4名	9名
	計	11名	14名	25名
臨床検査学科	県内	6名	17名	23名
	県外	7名	10名	17名
	計	13名	27名	40名
計		51名	92名	143名

④ 大学院新入生 55名(4月入学)

	男	女	計
医学研究科(博士)	27名	8名	35名
医学研究科(修士)	2名	4名	6名
医学研究科(共同・修士)	2名	4名	6名
看護学研究科(修士)	0名	8名	8名
計	31名	24名	55名

■令和2年度医学博士授与者(後期)

氏名	学位論文名
栗村 嘉昌	The Preoperative Pad Test as a Predictor of Urinary Incontinence and Quality of Life after Robot-assisted Radical Prostatectomy:A Prospective, Observational, Clinical Study. (術前パッドテストによるロボット支援前立腺全摘除術後の尿失禁とQOLの予測に関する臨床的前向き観察研究)
古谷 牧子	Tofacitinib inhibits granulocyte-macrophage colony-stimulating factor-induced NLRP3 inflammasome activation in human neutrophils (トファシチニブはヒト好中球において顆粒球マクロファージコロニー刺激因子によるNLRP3インフラマソーム活性化を阻害する)
喜古 崇豊	Myocardial Viability with Chronic Total Occlusion Assessed by Hybrid Positron Emission Tomography/Magnetic Resonance Imaging (慢性完全閉塞病変の心筋生存能評価に関するPET/MRI装置の有用性)
阿部 夏樹	Polypharmacy at admission prolongs length of hospitalization in gastrointestinal surgery patients (消化器外科患者の入院時のポリファーマシーが入院期間の延長を引き起こす)
赤間 浄	Differences in treatment and prognosis by the experience of falls or bone fracture in elderly patients with atrial fibrillation (高齢心房細動患者において転倒または骨折の既往による治療内容と予後の差異)

<p>安齋 文弥 Crucial role of NLRP3 inflammasome in a murine model of Kawasaki disease (川崎病疾患モデルにおけるNLRP3インフラマソームの役割)</p>	<p>皮膚科スクリーニングツールの開発：乳幼児の皮膚症状の保護者の認識と医師の診断の比較)</p>
<p>今井 亮太 Goshajinkigan, a Traditional Japanese Medicine, Suppresses Voltage-Gated Sodium Channel Nav1.4 Currents in C2C12 Cells (日本の伝統薬である牛車腎気丸はC2C12細胞において電位依存性ナトリウムチャネルNav1.4電流を抑制する)</p>	<p>安藤 卓也 Chapter I. Prognostic impacts of nutritional status on long-term outcome in patients with acute myocardial infarction (急性心筋梗塞患者の栄養状態と長期予後の関係に関する検討)</p>
<p>照井 稔宏 The Association Between Fathers' Self-Assessment of Their Own Parenting and Mothers' Recognition of Paternal Support: A Municipal-Based Cross-Sectional Study (父親の育児に関する自己評価と父親のサポートに関する母親の認識との関連：自治体調査に基づく横断研究)</p>	<p>Chapter II. The clinical value of the PRECISE-DAPT score in predicting long-term prognosis in patients with acute myocardial infarction (急性心筋梗塞患者の長期予後予測におけるPRECISE-DAPTスコアの臨床的意義に関する検討)</p>
<p>中村 光輝 Do Family Medicine Clerkships Complement Clerkships at Teaching Hospitals in Japanese Undergraduate Medical Education?: An Observational Study (日本の卒前医学教育において総合診療/家庭医療学実習は教育病院での実習を補完するのか?：観察研究)</p>	<p>柏崎 佑哉 Relationships between radiation risk perception and health anxiety, and contribution of mindfulness to alleviating psychological distress after the Fukushima accident: Cross-sectional study using a path model (福島原発事故後の心理的苦痛に対する放射線リスク認知、健康不安の関連とマインドフルネスによる緩衝効果：パスモデルを用いた横断研究)</p>
<p>三浦 里織 Amyloid precursor protein 770 is specifically expressed and released from platelets (アミロイド前駆体タンパク質APP 770は血小板に特異的に発現し放出される)</p>	<p>田辺 隼人 Factors associated with risk of diabetic complications in novel cluster-based diabetes subgroups: a Japanese retrospective cohort study (クラスター分析による新しい糖尿病サブグループにおける糖尿病合併症のリスク要因：日本人後ろ向きコホート研究)</p>
<p>佐藤 博子 Development of a pediatric dermatology screening tool based on two parent-reported skin symptoms: Comparison of parental recognition and physician diagnosis of skin symptoms of infants and toddlers (保護者が報告した2つの皮膚症状に基づく小児</p>	<p>Burden of undiagnosed type 2 diabetes in diabetic kidney disease: a Japanese retrospective cohort study (糖尿病性腎臓病における未診断2型糖尿病の影響：日本人後ろ向きコホート研究)</p>

<p>加瀬 晃志 ARID1A deficiency in EBV-positive gastric cancer is partially regulated by EBV-encoded miRNAs, but not by DNA promoter hypermethylation. (EBV 関連胃癌における ARID1A 遺伝子発現は、DNA プロモーター高メチル化ではなく EBV-miRNA によって一部制御されている)</p> <p>吉田 知克 Social Factors Associated with Life Satisfaction and Psychological Distress among Residents with Developmental Disorders in Fukushima Prefecture (福島県における発達障がい者の生活満足度および精神的苦痛と社会的因子との関連性)</p> <p>井口 正寛 救急における急性髄膜炎の jolt accentuation of headache の診断精度</p> <p>佐藤 雄紀 Circulating extracellular vesicle-encapsulated microRNA as screening biomarkers for intraductal papillary mucinous neoplasm (血中細胞外小胞 microRNA による膵管内乳頭状粘液性腫瘍の良悪性診断法の開発)</p> <p>郡司 直彦 Upregulation of complement C1q reflects mucosal regeneration in a mouse model of colitis (腸炎モデルマウスにおいて補体 C1q の発現増加は粘膜再生を反映する)</p>	<hr/> <h1 style="margin: 0;">人 事</h1> <hr/> <p style="text-align: right;">(令和3年9月1日現在)</p> <p>○新任教授等</p> <p>採用 3.4.1 総合科学教育研究センター 教授 田辺 真</p> <p>採用 3.4.1 外傷学講座 教授 岡崎 裕司</p> <p>採用 3.4.1 生体機能イメージング講座 教授 松田 博史</p> <p>採用 3.4.1 生命科学部門 教授 關亦 明子</p> <p>採用 3.4.1 基礎看護学部門 教授 黒田 るみ</p> <p>採用 3.4.1 災害・被ばく医療科学共同専攻 教授 佐藤 美佳</p> <p>採用 3.4.1 災害・被ばく医療科学共同専攻 教授 橋本 真由美</p> <p>採用 3.4.1 理学療法学科 教授 柴 喜崇</p> <p>採用 3.4.1 理学療法学科 教授 高橋 仁美</p> <p>採用 3.4.1 理学療法学科 教授 森下 慎一郎</p> <p>採用 3.4.1 作業療法学科 教授 林 博史</p> <p>採用 3.4.1 作業療法学科 教授 倉澤 茂樹</p> <p>採用 3.4.1 作業療法学科 教授 曾根 稔雅</p> <p>採用 3.4.1 診療放射線科学科 教授 三輪 建太</p> <p>採用 3.4.1 診療放射線科学科 教授 長谷川 功紀</p>
---	---

採用 3.4.1 臨床検査学科 教授 義久 精臣	採用 3.4.1 臨床検査学科 准教授 菅野 光俊
採用 3.4.1 臨床検査学科 教授 宇月 美和	昇任 3.4.1 ふたば救急総合医療支援センター 准教授 杉本 浩一
採用 3.4.1 会津医療センター 感染症・呼吸器内科学講座 医監兼教授 久米 裕昭	昇任 3.4.1 助産師養成課程設置準備室 准教授 渡邊 一代
採用 3.4.1 会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座 医監兼教授 白土 修	採用 3.4.1 健康増進センター 准教授 深澤 舞子
昇任 3.4.1 会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座 主任部長兼教授 岩渕 真澄	採用 3.5.1 白河総合診療アカデミー 准教授 宮下 淳
採用 3.5.1 麻酔科学講座 教授 井上 聡己	昇任 3.8.1 放射線腫瘍学講座 准教授 吉本 由哉
採用 3.5.1 白河総合診療アカデミー 教授 竹島 太郎	○新任講師等
昇任 3.6.1 脳神経外科学講座 教授 藤井 正純	昇任 3.4.1 血液内科学講座 講師 木村 哲
採用 3.7.1 放射線医学県民健康管理センター 特命教授 在間 寛	昇任 3.4.1 腎臓高血圧内科学講座 講師 東 淳子
昇任 3.7.1 地域医療支援センター 教授 中里 和彦	昇任 3.4.1 肝胆膵・移植外科学講座 講師 石亀 輝英
○新任准教授等	昇任 3.4.1 小児科学講座 講師 青柳 良倫
採用 3.4.1 東白川整形外科アカデミー 准教授 吉田 勝浩	昇任 3.4.1 神経精神医学講座 講師 刑部 有祐
採用 3.4.1 先端地域生活習慣病治療学講座 准教授 風間 咲美	採用 3.4.1 外傷学講座 講師 高木 基行
昇任 3.4.1 基礎看護学部門 准教授 丸山 育子	採用 3.4.1 母性看護・助産学部門 講師 石井 佳世子
採用 3.4.1 理学療法学科 准教授 阿部 浩明	採用 3.4.1 作業療法学科 講師 石川 陽子
採用 3.4.1 理学療法学科 准教授 楠本 泰士	採用 3.4.1 診療放射線科学科 講師 山品 博子
採用 3.4.1 診療放射線科学科 准教授 五月女 康作	採用 3.4.1 助産師養成課程設置準備室 講師 清水川 由美子
昇任 3.4.1 診療放射線科学科 准教授 佐藤 久志	採用 3.4.1 放射線医学県民健康管理センター 講師 堀越 直子
採用 3.4.1 臨床検査学科 准教授 鈴木 英明	昇任 3.6.1 解剖・組織学講座 講師 田村 直輝
	採用 3.7.1 会津医療センター 循環器内科学講座 科長兼講師 菅井 義尚

■就任あいさつ

副理事長（復興・国際担当）

ふくしま国際医療科学センター
センター長就任御挨拶

ふくしま国際医療
科学センター
センター長
挾間 章博



令和3年4月より、ふくしま国際医療科学センター・センター長を拝命しました。その2ヶ月前に、竹之下理事長から連絡をいただき、副理事長（復興・国際担当）とふくしま国際医療科学センターの責任者を任せたいとお話で、正直に申し上げると晴天の霹靂でした。

私は、平成15年4月に本学に赴任してから、もっぱら学生教育と基礎医学研究に努めてまいりましたが、大学全体を見渡す仕事や復興に関係する仕事には関わってこなかったからです。本学に赴任する前は、海外や国立の研究所で、研究生活を送っていたため、学生教育の経験が全く無く、私にとって学生教育は大きな課題でした。気がつくやうに、目の前にいる問題を抱えた学生たちと、共に考え、悩み、僅かの前進にも喜ぶ日々を送ることになりました。私自身が、学生たちから多くのことを学ばせていただいたと感謝しています。

このように、これまで復興に直接関わってこなかった私のふくしま国際医療科学センターのセンター長としての役割は、この素晴らしい組織に一層多くの若者たちが集い、活躍できる道筋をつけることだと考えています。どんなに立派な建物であっても素晴らしい機器があっても、そこに生き生きとした若者たちが居なければ、明るい未来はありません。また、現在、国が計画している浜通り国際教育研究拠点にも、一つの柱として、本学一特にふくしま国際医療科学センターが関わることになっています。

このような展望がある中、ふくしま国際医療

科学センターのさらなる発展のために精進いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

保健科学部長就任御挨拶

保健科学部
学部長
矢吹 省司



令和3年（2021年）4月1日にスタートした保健科学部の学部長を拝命しました。理学療法学科、作業療法学科、診療放射線科学科、そして臨床検査学科の4学科を有する保健科学部ができたことにより、福島県立医科大学は3学部6学科を有する医療系総合大学に進化しました。4月9日からは福島駅前キャンパスでの講義がスタートし、8月中旬に何とか前期を終えることができ今はホッとしております。

今年入学した一期生は全員で143名です。県内出身者が6割、県外が4割となっております。男女比は学科によって異なりますが、全体としては男性4割、女性6割です。新しい土地で先輩がいない環境の中、不安を抱えていると思いますが、全員目を輝かせて学んでいます。卒業して皆様と一緒に働くようになるのは4年先になります。確かな知識と技術、良好なコミュニケーション能力、そして高い研究マインドを持った専門医療技師としてチーム医療の一翼を担えるような人材に育てていきたいと思っています。

保健科学部の教員は全員揃うと4学科で60名になります（他に総合科学の先生方も7名います）。教育だけでなく、研究も大いにやってくれるはずですが、県内の医療技師との共同研究はもとより、他職種の皆様との共同研究もやれるのではないかと考えております。皆様と協力しながら保健科学部を早く一人前の学部に成長させ

るとともに、福島県立医科大学全体の発展に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

保健科学部 理学療法学科 学科長就任御挨拶

保健科学部
理学療法学科
学科長
神先 秀人



令和3年4月1日に、福島県立医科大学保健科学部発足に伴い、理学療法学科長を拝命いたしました。

開設に立ち合わせていただいた我々に与えられた使命は、まずは、新学部における教育活動を軌道に乗せ、学生が入学して良かったと実感できる教育環境を構築することだと思います。そのためには、学内の教育体制の充実とともに、80施設に及ぶ県内の臨床実習施設との間に良好な信頼関係を築くことが重要と考えます。このことは、臨床教育の充実に加え、卒業生の就職活動にも影響するため、力を入れて取り組む所存です。

また、卒業後のステップアップを希望する学生に対して、専門性の高い知識・技術の提供や研究指導を行う場として、大学院の設置が求められます。現在、東北地方には理学療法士を養成する国公立の大学が本学以外に4校ありますが、全ての大学で博士後期課程までの大学院が整備されています。われわれも、皆さま方のご支援、ご協力をいただきながら、大学院設置に向けての準備に積極的に取り組みたいと考えます。

今年の6月から7月にかけて臨床実習施設を訪問した際に、多くの施設で出会ったのは、福島県立医科大学への敬意と本学の学生に対する

期待の言葉でした。本学がこれまで福島県で果たしてきた功績と信頼の大きさを改めて実感することができました。

我々も、その一翼を担うものとして認められるよう、教育、研究、臨床、及び地域貢献に取り組んで参ります。今後とも、よろしくご指導の程、お願い申し上げます。

保健科学部 作業療法学科 学科長就任御挨拶

保健科学部
作業療法学科
学科長
五百川 和明



令和3年4月より、保健科学部作業療法学科長を拝命いたしました五百川和明と申します。

私は作業療法士として県内3病院で勤務した後、平成20年から東北福祉大学で作業療法士養成教育に携わり、平成29年4月から本学新医療系学部設置準備室に着任し、保健科学部の開設に向けた業務を勤めて参りました。

この度の就任にあたり、保健科学部作業療法学科として新たなスタートを切ることができた喜びとともに、福島県立医科大学の一員として着実な歩みを進めていく責任の重さを噛みしめております。

作業療法の実践領域は、脳血管疾患や運動器疾患、がん等の身体障害領域をはじめ、統合失調症やうつ病等の精神障害領域、脳性麻痺や自閉スペクトラム症、学習障害等の発達障害領域、そして認知症やフレイル等の高齢期障害領域と幅広く、その実践は病院や介護施設に留まらず、学校や保健所、企業等へと徐々に拡大してきております。作業療法士の役割は、様々な障害を有する対象者が再び日常生活や地域生活を自立して行えるよう支援することです。そのために

は心身機能への介入に加え、実際の生活場面での動作方法や作環境整備等を含めた包括的な介入が必要です。作業療法学科はこれらの領域の研究と教育を推進させ、対象者の健康増進や生活支援に貢献するとともに、作業療法学界のリーダーとなる人材を輩出する所存です。本学科に対し、諸先生方のご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

保健科学部 診療放射線科学科 学科長就任御挨拶

保健科学部
診療放射線科学科
学科長
久保 均



このたび、保健科学部診療放射線科学科長を拝命いたしました。

保健科学部は、令和3年4月1日に福島駅前キャンパスにて新しく開設されました。診療放射線科学科は診療放射線技師を養成する学科であり、福島県では初めてです。1学年の学生定員が25名と非常に小規模な学科ではありますが、逆に少人数教育ができる強みと捉え、福島医大出身の診療放射線技師はさすがだ、と言っただけのような人材を輩出したいと考えております。

理工学の知識や技術を基に医療に貢献する診療放射線技師の業務は、日進月歩の医療技術の進歩に伴って飛躍的に増大し、知識や技術をアップデートするだけでも大変な状況となっております。加えて、「医師の働き方改革を進めるためのタスクシフト/シェアの推進」に基づき令和3年7月公布された診療放射線技師法施行規則等の一部改正によって、例えば造影剤や放射性医薬品を投与するための静脈路の確保およびそれらの薬剤投与、そして投与後の抜針まで実

施できるようになりました。もちろん、これらの内容は学部教育でも実施しなければならず、その対応を検討中です。

このように、診療放射線技師は今まではどちらかというと患者さんを相手に機械を操作する人、という印象だったのが、より患者さんに侵襲度の高い医療技術を提供する人へ変わりつつあります。皆様のお力をいただきながら、優れた人材の育成と輩出に尽力し本学の発展に寄与して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

保健科学部 臨床検査学科 学科長就任御挨拶

保健科学部
臨床検査学科
学科長
小川 一英



私は、医大キャンパスが杉妻町から光が丘に移転した昭和62年に本学を卒業しました。以降これまで、留学の数年間を除き、ほとんどを光が丘で過ごしてきました。この度、保健科学部臨床検査学科の学科長を拝命し、職場が初めて光が丘以外の場所に移りました。

私の専門は血液内科学で、これまで造血器腫瘍、造血細胞移植を専門領域として診療、教育、研究に取り組んで参りました。臨床検査学科では血液検査学を中心に講義、実習などを担当する予定です。保健科学部の設立にあたり、平成28年4月に光が丘に新医療系学部設置準備室が設置されましたが、私は同年の5月に医学部講座からこの準備室に移り設立業務に携わって参りました。全く畑違いの仕事となり当初は戸惑うことばかりでしたが、年々準備室に臨床検査を専門とする新たな教員が増え、駅前の新キャンパスの姿が整って

いき、徐々に一つの学科が形になっていく過程の中に身を投じることができたことはとても貴重な経験となりました。全国から実力ある教員が集まり、設備面でもしっかりとした教育環境が整い、自信を持って新入生を受け入れる体制を整えたつもりではおりましたが、初めての入試では本学科を目指してくれる受験生が果たしてどのくらいいるのか、出願の時期は祈るような気持ちでした。結果的には予想を上回る受験生が集まり、県内生はもとより、北は青森県から南は三重県まで全国からたくさんの優秀な学生を獲得することができました。今、この新たなキャンパスで、希望を持って入学してくれた学生に教育できる大きな喜びと責任を感じながら開設初年次を過ごしております。さらにより良い学科・学部となるよう、医学部での長年の教育経験をすべてつぎ込んで頑張っていきたいと思っております。これからも引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

医学部 脳神経外科学講座

主任教授就任御挨拶

医学部
脳神経外科学講座
主任教授
藤井 正純



このたび、6月1日から脳神経外科学講座・主任教授を拝命いたしました。私は、1992年名古屋大学卒業後、マサチューセッツ総合病院留学・名古屋大学及びその関連病院での勤務を経て、2015年に本学に参りました。准教授として6年間学ぶ機会があり、その間、齋藤清前教授はじめ学内外の先生方から温かいご指導をいただきました。さらに、素晴らしい仲間にも囲まれ、多くの

患者さんやそのご家族との忘れ得ぬ出会いがありました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。この御恩に報いるべく、「本物」にこだわって、次世代を創り、福島県立医科大学に貢献したいと考えています。ここで、「本物」として自らの信条が三つあります。

第一の信条として、私は、「**すべての医療者は、患者さんを癒すためにある**」と考えています。「本物」の医療とは、患者を癒すことのできる温かい医療です。

二つ目は、「**脳神経外科医として一流のマスターであること、そして『最高』を超えること**」。すぐれた診療の技量・技術で「本物」の医療を提供したい。

三つ目は、「**科学的探究心を常に持つこと**」。患者の持つ情報こそ、実験系にない「本物」であり、そこから如何に本質を見抜き、洞察を得るかが、科学・医学の進歩の鍵です。そこからシーズを育て、基礎研究から橋渡し研究まで一貫して行って、次世代の医療を開拓したいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

医学部 麻酔科学講座

主任教授就任御挨拶

医学部
麻酔科学講座
主任教授
井上 聡己



麻酔科学講座の主任教授を拝命いたしました井上聡己と申します。京都出身で大学が奈良なのでほとんど関西圏のみで生活してきました。卒後3目の初めての出向先として勤務していた大阪脳神経外科病院で数名の福島医大脳外科の先生とお仕事させて

いただいたことが東北との初めての出会いでした。それから20年以上たち福島医大の先生方と働くようになるとは何かの縁を感じます。その後、国立循環器病センター麻酔科レジデントとして研修を終えたのち奈良医大に帰局し、軽度低体温下における脳循環について研究をはじめました。そのうち2001年から2年間カリフォルニア大学サンディエゴ校に留学する機会を得、脳虚血の研究をさせていただきました。この虚血研究はその後も奈良でずっと続けてまいりました。帰国後10年ほどは手術麻酔、集中治療を中心に働き、ペインクリニックの研修などもさせていただきました。2013年からは集中治療部の専従となり福島にやってくるまでは麻酔科医というより集中治療医として働いていたと思います。福島に来てからは手術麻酔が主な仕事となっています。手術麻酔のトピックスは手術件数を確保しつつ麻酔科医の過重労働を減らすことです。この解決策は麻酔業務をタスクシフト、タスクシェアすることが考えられます。複雑な手術が増え麻酔業務は複雑化していますが、一方で麻酔管理が自動化され安全性が高まっており一部の症例では必ずしも麻酔科医が主体になって管理しなくても良い症例も出てきています。こういった症例をうまく多職種によって管理し指揮を執っていくのが今後の麻酔科医の姿ではないかと思っております。麻酔科医の新しい在り方を在任中に確立したいと思っております。まだまだ、解決しなくてはならない問題が山積していますが、夢を語るリーダーとして頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

諸規程改正

■令和3年3月から令和3年8月までの 主な諸規程の制定改廃関係

○「公立大学法人福島県立医科大学職員に対する被服の支給等に関する規程」の一部改正について

(平成19年12月5日制定・令和3年3月3日施行)

調剤業務に従事する薬剤師及び医療関係技術職員の被服の支給数について改正された。

○「福島県立医科大学医学部入学試験委員会規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年3月17日施行)

医学部長が必要と認めた者等を委員に任命できるよう所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

令和3年度組織改正に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学准職員就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う改正及びその他所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学非常勤職員就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う改正及びその他所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学病院助手就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う改正及びその他所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学専攻医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

働き方改革関連法を踏まえ、休暇制度に所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

働き方改革関連法を踏まえ、休暇制度に所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

働き方改革関連法を踏まえ、休暇制度に所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学学則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う文言の追加及び学修評価基準の改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院学則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

学修の評価について、5段階評価とするなど所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設及び臨床研究センター内部組織改正に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター鍼灸研修生就業規則」の一部改正について

(平成26年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

働き方改革関連法を踏まえ、休暇制度に所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学事務決裁規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

令和3年度組織改正に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学組換えDNA実験安全管理規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学文書管理規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

令和3年度組織改正等に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学動物実験委員会規程」の一部改正について

(平成19年10月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学医療育成・支援センター規程」の一部改正について

(平成20年3月24日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学総合科学教育研究センター規程」の一部改正について

(平成20年3月31日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学総合科学教育研究センター運営委員会規程」の一部改正について

(平成20年3月31日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学研究用微生物安全管理規程」の一部改正について

(平成23年10月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学におけるコンプライアンスの推進に関する規程」の一部改正について

(平成23年10月18日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター先端臨床研究センター規程」の一部改正について

(平成28年4月1日制定・令和3年4月1日

施行)

組織に「基盤研究部門」「受託研究部門」が設置され、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

県での給与改定、及び保健科学部の開設等のため、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学臨床教授等の称号付与に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員服務規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学教員の自主研修に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学ハラスメント防止規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

規程の対象の追加、ハラスメントの定義の見直し等その他要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学人事管理委員会規程」の一部改正について

(平成19年7月2日制定・令和3年4月1日施行)

理事の所管業務変更に伴う改正が行われた。

○「福島県立医科大学総合科学教育研究センター領域長選考規程」の一部改正について

(平成20年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学医学学生部長等選考規程」の一部改正について

(平成20年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員に係る管理職員等の範囲を定める規程」の一部改正について

(平成20年3月19日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学教員の任期に関する規程」の一部改正について

(平成21年1月16日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト教員等給与規程」の一部改正について

(平成20年9月16日制定・令和3年4月1日施行)

管理職員である年俸制職員に対して超過勤務手当等を支給しないことを定めるなど、所要の改正が行われた。

○「女性医師の産休等に伴う定数配分先選定委員会規程」の一部改正について

(平成23年10月1日制定・令和3年4月1日施行)

令和3年度組織改正に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センターに関連する講座の主任教授適任者選考規程」の一部改正について

(平成27年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学医療人育成・支援センター主任教授適任者選考規程」の一部改正について

(平成28年6月15日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学医学部履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

成績評価及び成績評価基準の評価区分の新設及びその他所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学医学部教務委員会規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

医学教育分野別評価に対応した組織体制の見直し等所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院医学研究科履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院看護学研究科履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

学修の評価について、5段階評価とするなど所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学学生寮規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学看護学部履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

学修の評価について、5段階評価とするなど所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学看護学部教務委員会規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学学生部学生生活委員会規程」の一部改正について

(平成28年6月29日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学看護師特定行為研修センター規程」の一部改正について

(平成29年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

看護師特定行為研修受講料にパッケージ研修を追加することなど所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学看護師特定行為研修履修規程」の一部改正について

(平成29年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、研修期間の一部改正が行われた。

○「福島県立医科大学医学部カリキュラム委員会規程」の一部改正について

(平成30年9月19日制定・令和3年4月1日施行)

医学教育分野別評価に対応した部会の新設及び所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属学術情報センター規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属学術情報センター運営委員会規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院臨床研究センター規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

令和3年度組織改正に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院における職員等のネームプレートに関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

医師区分について改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院における臨床研究法に基づく臨床研究実施規程」の一部改正について

(平成30年7月1日制定・令和3年4月1日施行)

利益相反マネジメント要綱の制定に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター放射線医学県民健康管理センター規程」の一部改正について

(平成23年9月1日制定・令和3年4月1日施行)

令和3年度組織改正に伴う所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学准職員給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

新型コロナウイルス感染症の定義について県の規則改正に併せ、改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学非常勤職員給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

新型コロナウイルス感染症の定義について県の規則改正に併せ、改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

基本給の特例について、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学専攻医及び病院助手給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

県の規則改正に伴い、新型コロナウイルス感染症の定義について改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

県の規則改正に伴い、新型コロナウイルス感

染症の定義について改正された。

諸手当に地域手当が追加された。

○「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

県の規則改正に伴い、新型コロナウイルス感染症の定義について改正された。

諸手当に休日手当の追加等、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院卒後臨床研修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年5月20日施行)

卒後臨床研修管理委員会の委員長及び副委員長について、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」の制定について

(令和3年6月16日制定・令和3年6月16日施行)

本学における人を対象とする生命科学・医学系研究を実施するために必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学倫理審査委員会規程」の制定について

(令和3年6月16日制定・令和3年6月16日施行)

倫理審査委員会に関し必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学総合科学系教員の採用及び昇任選考規程」の一部改正について

(平成23年8月1日制定・令和3年6月17日施行)

対象を総合科学教育研究センター本務とする教員に改める改正が行われた。

○「福島県立医科大学総合科学系教員体制等検討委員会規程」の一部改正について

(平成23年8月1日制定・令和3年6月17日施行)

所掌に総合科学教育研究センターが追加された。

保健科学部開設に伴う所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学における人を対象とする医学系研究に関する規程」の廃止について

(平成29年4月1日制定・令和3年6月30日施行)

福島県立医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程の制定により、令和3年6月30日付けにて廃止された。

○「福島県立医科大学倫理委員会規程」の廃止について

(平成18年4月1日制定・令和3年6月30日施行)

福島県立医科大学倫理審査委員会規程の制定により、令和3年6月30日付けにて廃止された。

○「公立大学法人福島県立医科大学公印規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年7月1日施行)

福島県立医科大学地域医療支援センター長印の新調による所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和3年8月1日施行)

附属病院の自由診療に関する諸料金に「遺伝性不整脈遺伝子検査料」が新設された。

○保健科学部に関する諸規程の制定について

(令和3年4月1日制定・令和3年4月1日施行)

保健科学部の設置に伴い、次の規程が制定された。

- ・福島県立医科大学保健科学部長選考規程
- ・福島県立医科大学保健科学部副保健科学部長選考規程
- ・福島県立医科大学保健科学部教授会規程
- ・福島県立医科大学保健科学部学生生活委員会規程
- ・福島県立医科大学保健科学部広報委員会規程
- ・公立大学法人福島県立医科大学福島駅前キャンパスにおける放射線等の安全に関する管理運営規程
- ・福島県立医科大学保健科学部教務委員会規程
- ・福島県立医科大学保健科学部入学試験委員会規程
- ・福島県立医科大学保健科学部履修規程
- ・福島県立医科大学福島駅前キャンパス構内駐車場管理規程
- ・福島駅前キャンパスにおける職員等のネームプレートに関する規程

**役員会・経営審議会・教育研究
審議会・医学部教授会・看護学
部教授会・保健科学部教授会**

■役員会

【令和3年3月24日 第13回役員会】

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」及び「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正について

令和3年度からの保健科学部の新設や、医学部、附属病院の組織変更に伴う規程の一部改正についての審議が行われ、原案のとおり承認された。

○助産師養成施設の整備概要について

令和5年4月開設の助産師養成課程に係る施設整備概要について報告された。

【令和3年4月1日 第1回役員会】

○地方独立行政法人法第14条第5項に基づく副理事長、理事の任命の届出について

副理事長及び理事に辞令を交付し任命したこと、地方独立行政法人法に基づき知事に届け出ることについて報告された。

【令和3年4月28日 第2回役員会】

○令和2年度競争的資金等に係る不正防止計画の実施状況について

「公的研究費の管理・運営体制に関する要綱」第3条及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、令和2年度の不正防止対策の実施状況について報告された。

【令和3年5月26日 第3回役員会】

○医療安全改革アクションプランの成果報告書について

令和元年9月に附属病院の医療安全管理体制再構築のため策定されたアクションプランについて、令和3年3月までの取組をまとめた成果報告書等の審議が行われ、原案のとおり承認された。

○「県民健康調査」の進捗状況について

第41回「県民健康調査」検討委員会にて公表された県民健康調査の進捗状況について報告された。

【令和3年6月30日 第4回役員会】

○別科助産学専攻（仮称）「令和5年度入試概要（案）」について

別科助産学専攻（仮称）「令和5年度入試概要（案）」について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○中期目標見直しに関する意見について

第3期中期目標の中間見直しに関する県からの意見照会に対する回答案について報告された。

【令和3年7月28日 第5回役員会】

○公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程の一部改正について

附属病院の遺伝性不整脈遺伝子検査料 Brugada 症候群に関する諸料金規程の一部改正について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○客観的な記録による職員の勤務時間の状況の把握について

労働安全衛生法及び同規則の改正に伴い、客観的な方法による勤務時間の状況の把握が求められていることから、来年度から既存のICカードを活用し出退勤時間の記録を行うことについて報告された。

【令和3年8月25日 第6回役員会】

○本学とホーチミン市医科薬科大学との協定更新について

本学の国際交流事業の一環であるベトナムホーチミン市医科薬科大学（UMP）との交流協定の更新について審議され、原案のとおり承認された。

○ふくしま国際医療科学センターの歩みと今後に向けた取組について

震災後10年のふくしま国際医療科学センター全体の取組を総括するものとして、「ふくしま国際医療科学センターの歩みと今後に向けた取組」をまとめ、ホームページに掲載することについて報告された。

■経営審議会**【令和3年3月23日 令和2年度第4回経営審議会】**

○令和3年度法人予算案について

令和3年度の法人予算案について諮られ、原案のとおり承認された。

【令和3年6月22日 令和3年度第1回経営審議会】

○令和2年度決算（案）について

令和2年度の決算案について諮られ、原案のとおり承認された。

■教育研究審議会**【令和3年3月23日 令和2年度第4回教育研究審議会】**

○令和3年度年度計画案について

令和2年度の年度計画の進捗状況を踏まえ、本学が抱える課題の解決に向けた方策を検討した上で、各所属が作成した令和3年度年度計画案について審議され、原案のとおり承認された。

○大学院看護学研究科博士課程の設置認可申請について

令和4年度の設置に向けて、3月18日に文部科学省へ設置認可申請を行ったこと等について報告があった。

○福島県立医科大学学則及び大学院学則の一部改正について

大学院看護学研究科博士課程の設置に伴い「学則」及び「大学院学則」を改正すること等について報告があった。

○保健科学部の開設について

福島駅前キャンパスの整備状況や令和3年度入学者選抜の実施状況等について報告があった。

【令和3年6月22日 令和3年度第1回教育研究審議会】

○別科助産学専攻（仮称）「令和5年度入試概要（案）」について

別科助産学専攻（仮称）「令和5年度入試概要（案）」について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○大学院医学研究科博士課程の定員変更について

大学院医学研究科博士課程の入学定員を令和5年度から変更することについて審議が行われ、原案のとおり承認された。

■医学部教授会**【令和3年3月17日 定例教授会】**

○組換えDNA実験安全管理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

和栗 聡 教授（解剖・組織学講座）

松岡 有樹 教授（自然科学講座）

関口 美穂 教授（実験動物研究施設）

下村 健寿 教授（病態制御薬理医学講座）

荻谷 慶喜 准教授（生化学講座）
 加藤 成樹 准教授（生体機能研究部門）
 福田 俊章 准教授（人間科学講座）
 岩佐 一 准教授（公衆衛生学講座）

○研究用微生物安全管理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

錫谷 達夫 教授（微生物学講座）
 金光 敬二 教授（感染制御学講座）
 関口 美穂 教授（実験動物研究施設）
 各務 竹康 准教授（衛生学・予防医学講座）
 加藤 成樹 准教授（生体機能研究部門）

○福島県立医科大学医学部教育評価委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

錫谷 達夫 教授（微生物学講座）
 福島 哲仁 教授（衛生学・予防医学講座）
 大平 哲也 教授（疫学講座）
 池添 隆之 教授（血液内科学講座）
 柴田 陽光 教授（呼吸器内科学講座）
 河野 浩二 教授（消化管外科学講座）
 丸橋 繁 教授（肝胆膵・移植外科学講座）
 小山 明彦 教授（形成外科学講座）
 小島 祥敬 教授（泌尿器科学講座）
 池田 和彦 教授（輸血・移植免疫学講座）
 佐治 重衡 教授（腫瘍内科学講座）
 関口 美穂 教授（実験動物研究施設）
 亀岡 弥生 教授

（医療人育成・支援センター）

西郡 秀和 教授

（ふくしま子ども・女性医療支援センター）

※令和3年6月16日医学部定例教授会において、追加の委員について、次のとおり選出された。

（追加選出）

医学部生代表6名

○令和3年度カリキュラム委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

木村 隆 教授（外科研修支援担当）
 橋本 優子 教授（病理病態診断学講座）
 西田 満 教授（生化学講座）
 永福 智志 教授（システム神経科学講座）
 藤野 美都子 教授（人間科学講座）
 挾間 章博 教授（細胞統合生理学講座）
 島袋 充生 教授
 （糖尿病内分泌代謝内科学講座）

開 康一 教授

（総合科学教育研究センター（物理学担当））

※令和3年6月16日医学部定例教授会において、追加の委員について、次のとおり選出された。

（追加選出）

医学部生代表6名

○令和3年度医学部教務委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

松岡 有樹 教授（自然科学講座）
 木村 隆 教授（外科研修支援担当）
 小宮 ひろみ 教授（性差医療センター）
 渡辺 浩志 教授
 （リウマチ膠原病内科学講座）
 開 康一 教授

（総合科学教育研究センター（物理学担当））

関根 英治 教授（免疫学講座）

西田 満 教授（生化学講座）

永福 智志 教授（システム神経科学講座）

橋本 優子 教授（病理病態診断学講座）

濱口 杉大 教授（附属病院総合内科）

金井 数明 教授（脳神経内科学講座）

千葉 英樹 教授（基礎病理学講座）

伊関 憲 教授（救急医療学講座）

藤野 美都子 教授（人間科学講座）

志村 浩己 教授（臨床検査医学講座）

大谷 晃司 教授

（医療人育成・支援センター）

亀岡 弥生 教授

（医療人育成・支援センター）

※令和3年4月21日医学部定例教授会において、追加の委員について次のとおり選出された。

(看護学部教務委員の医学部教務委員就任者)

太田 昌一郎 教授 (生命科学部門)

(保健科学部教務委員の医学部教務委員就任者)

豊川 真弘 教授 (臨床検査学科)

※令和3年6月16日医学部定例教授会において、追加の委員について、次のとおり選出された。

(追加選出)

医学部生代表6名

○令和3年度医学部入試委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

和栗 聡 教授 (解剖・組織学講座)

田巻 倫明 教授

(健康リスクコミュニケーション学講座)

添田 周 教授 (産科婦人科学講座)

坪倉 正治 教授 (放射線健康管理学講座)

小林 和人 教授 (生体機能研究部門)

大谷 晃司 教授

(医療人育成・支援センター)

田中 秀明 教授 (附属病院小児外科)

鈴木 悟 教授 (放射線医学県民健康管理センター甲状腺検査部門甲状腺検査推進室)

西田 満 教授 (生化学講座)

石川 徹夫 教授 (放射線物理化学講座)

島袋 充生 教授 (糖尿病内分泌代謝内科学講座)

山本 俊幸 教授 (皮膚科学講座)

葛西 龍樹 教授 (地域・家庭医療学講座)

和田 郁夫 教授 (細胞科学研究部門)

開 康一 教授

(総合科学教育研究センター (物理学担当))

松岡 有樹 教授 (自然科学講座)

※令和3年4月21日医学部定例教授会において、追加の委員について、次のとおり選出された。

(追加選出)

田辺 真 教授

(総合科学教育研究センター (化学担当))

※令和3年6月16日医学部定例教授会において、追加の委員について、次のとおり選出された。

(追加選出)

医学部生代表6名

【令和3年4月21日 定例教授会】

○指針対応臨床研究審査委員会委員の推薦について

委員退任による欠員1名について、次のとおり選出され、学長に推薦された。

西田 満 教授 (生化学講座)

【令和3年7月21日 定例教授会】

○附属学術情報センター運営委員の推薦について

委員退任による欠員1名について、次のとおり選出され、学長に推薦された。

渡辺 浩志 教授

(リウマチ膠原病内科学講座)

■看護学部教授会

【令和3年3月16日 定例教授会】

○組換えDNA実験安全委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

森 努 准教授 (生命科学部門)

○研究用微生物安全管理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

森 努 准教授 (生命科学部門)

■保健科学部教授会

【令和3年4月1日 臨時教授会】

○保健科学部学生生活委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

柴 喜崇 教授（理学療法学科）
 曾根 稔雅 教授（作業療法学科）
 三輪 建太 教授（診療放射線科学科）
 宇月 美和 教授（臨床検査学科）
 久保田 恵佑 講師
 （総合科学教育研究センター）

○保健科学部広報委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

岡崎 可奈子 助教（理学療法学科）
 藤田 貴昭 准教授（作業療法学科）
 加藤 貴弘 教授（診療放射線科学科）
 菅野 光俊 准教授（臨床検査学科）

○保健科学部教務委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

神先 秀人 教授（理学療法学科）
 阿部 浩明 准教授（理学療法学科）
 五百川 和明 教授（作業療法学科）
 曾根 稔雅 教授（作業療法学科）
 高橋 規之 教授（診療放射線科学科）
 長谷川 功紀 教授（診療放射線科学科）
 豊川 真弘 教授（臨床検査学科）
 鈴木 英明 准教授（臨床検査学科）
 有吉 健太郎 准教授
 （総合科学教育研究センター）

※令和3年4月22日保健科学部定例教授会において、追加の委員について次のとおり選出された。

（医学部教務委員の保健科学部教務委員就任者）

永福 智志 教授（システム神経科学講座）

（看護学部教務委員の保健科学部教務委員就任者）

大川 貴子 准教授（小児・精神看護学部門）

○保健科学部入学試験委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

高橋 仁美 教授（理学療法学科）
 倉澤 茂樹 教授（作業療法学科）
 久保 均 教授（診療放射線科学科）
 北爪 しのぶ 教授（臨床検査学科）
 本多 創史 教授
 （総合科学教育研究センター）
 佐々木 道子 教授
 （総合科学教育研究センター）
 反町 篤行 准教授
 （総合科学教育研究センター）

○保健科学部予算委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

神先 秀人 教授（理学療法学科）
 五百川 和明 教授（作業療法学科）
 久保 均 教授（診療放射線科学科）
 義久 精臣 教授（臨床検査学科）
 安田 尚子 教授
 （総合科学教育研究センター）

○保健科学部ファカルティ・ディベロップメント委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

横塚 美恵子 准教授（理学療法学科）
 川又 寛徳 講師（作業療法学科）
 福田 篤志 准教授（診療放射線科学科）
 三浦 里織 助教（臨床検査学科）

【令和3年4月22日 定例教授会】

○附属学術情報センター運営委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

曾根 稔雅 教授（作業療法学科）
 三輪 建太 教授（診療放射線科学科）

○組換えDNA実験安全委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

北爪 しのぶ 教授（臨床検査学科）

○動物実験委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

有吉 健太郎 准教授

(総合科学教育研究センター)

○研究用微生物安全管理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

豊川 真弘 教授 (臨床検査学科)

【令和3年7月29日 定例教授会】

○教員評価委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

高橋 仁美 教授 (理学療法学科)

五百川 和明 教授 (作業療法学科)

久保 均 教授 (診療放射線科学科)

小川 一英 教授 (臨床検査学科)

雑 報

■保健科学部の開設について



保健科学部は、福島県における東日本大震災後の医療技術者の流出や健康不安の増大を背景に、広く社会に貢献しうる専門医療技術者（理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、臨床検査技師）を養成するために、令和3年4月に開設されました。

本学部では、専門医療技術者に必要とされる知識・技術に加え、主体性と協調性も含めた総合力を身につけられる、実践的な科目を多く配置しています。新たに整備された「福島駅前キャンパス」において、MRIを始めとする多くの高度な専門機器を利用した効果的な演習・実習を行うことで卒業後、医療現場に速やかに適応できる人材を養成していきます。

編集発行

公立大学法人福島県立医科大学

事務局 企画財務課

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

TEL 024 (547) 1013 / FAX 024 (547) 1991